

いちご棚式育苗システムの採苗方法と採苗時期							
<p>【要約】 <u>いちご棚式育苗システム</u>において、親株床に小型ポットを挿して子苗を受けけることにより、<u>省力的な採苗</u>が出来る。この<u>鉢受け法</u>による採苗を6月下旬までに終わることによって、従来のポット育苗と同等の苗が出来る。</p>							
園芸研究所・野菜花き部・野菜品種研究室					連絡先	092-922-4111	
部会名	園 芸	専 門	栽 培	対 象	果菜類	分類	普 及

【背景・ねらい】

いちごは収益性が高い作物であるが労働時間が長いことが問題となっており、これまで育苗の省力化のための棚式育苗システムを開発した。この育苗システムを利用した育苗技術を確立するために、小型ポットの採苗方法及び採苗時期を明らかにする。

【成果の内容・特徴】

- ①いちごの棚式育苗の採苗は、培土を入れた小型ポットを親株床に 5～ 7cmの深さに挿し、床面に並べて子苗を受けすることで楽に出来る（図1）。この方法によると、親株床に占める小型ポットの面積が小さいので、親株床の面積も少なくてすむ。
- ②鉢受け法によって6月下旬までに採苗した場合には、採苗時期の早晚にかかわらず慣行のポット育苗と同等の苗が確保できるが、7月以降の採苗では苗質が著しく低下する（表1）。

【成果の活用面・留意点】

- ①省力、軽作業化されたいちご育苗技術として活用できる。
- ②小型ポットに用いる軽量培土は、培土を小型ポットに詰めた後、採苗前に十分灌水し、水とよくなじませておく。また、親株床で培土が乾燥する場合には、小型ポットへ頭上かん水を行う。
- ③ランナー切り離し（採苗）の10日から2週間前までに小型ポットへランナーを固定し、苗の発根を促す。
- ④苗の養成期間中は、ポット育苗と同じ液肥を数日おきに施用する。

[具体的データ]

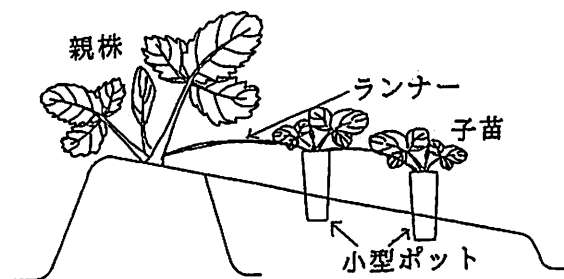


図1 小型ポットにおける採苗法 (平成4年)

表1 小型ポットでの採苗時期と苗の生育 (平成4年)

ポット	採苗日	葉柄長	葉身長	葉幅長	クラウン径	葉色値
		cm	cm	cm	mm	
小	6月10日	17.1	6.3	5.3	10.3	24.2
型	6月20日	18.3	6.4	5.3	9.5	23.5
ポ	6月30日	18.9	6.6	5.7	10.5	24.5
ッ	7月10日	17.1	4.6	4.2	7.2	21.2
ト	7月20日	16.7	4.4	4.0	7.1	20.9

慣行	6月20日	19.6	7.2	6.8	10.3	25.2

- 注) ①調査日：9月10日
 ②測定葉位：新生第2葉
 ③葉色値：葉色計 (SPAD501) での測定値
 ④慣行：12cmポリポット
 ⑤採苗日：ランナーの切り離し日

[その他]

研究課題名：イチゴの棚式育苗システムの開発

予算区分：経常

研究期間：平成4年度 (平成3～4年)

研究担当者：伏原 肇、林 三徳、柴戸靖志

発表論文名：平成3～4年度園芸研究所野菜花き部野菜品種研究室試験成績書